

浜嶋です。

2月7日、大阪連盟の「団活性化に向けて育成会長・団委員長&地区役員の集い」に加納さん、谷岡さんと参加しました。ユース（RS）から吉田副長もお手伝いに参加しました。大阪府内から120人ぐらいが集まりました。

1年間で一番隊員が増えた団で、特に印象に残った話があります。小学校の校長が、保護者の前で「ボーイスカウトの子供が挨拶がよくできたこと」を紹介したところ、10人のカブスカウトが誕生したそうです。校長先生の話は、信用できるのです。だから、保護者は、我が子もそうなってほしいと考えたのでしょうね。私は、特別にすごい挨拶をしたわけではなく、元気に挨拶ができたことに校長先生が感動したのだと思います。この団は、活動を地域に見えるようにすることも上げています。これは、日常の活動で、スカウトが元気な姿を見せることやセレモニーが感動を与える形になっていることが重要なポイントだと言えらると思います。つまり、団が推進している「カッコいい隊・団」になることです。今は、隊も団もカッコよくなる過程にあると思います。まだまだ、スカウトが大きな声で挨拶したり、大きな声で歌を歌えるようになっていません。もちろん指導者も一緒に取り組まないといけません。そう考えると外部の子供や保護者にまだ感動してもらえない状態になっていないということになります。隊員を増やすには、早く当たり前大きな声が出るようにしないとイケないと思うのです。どのようにするかを各隊リーダー全体で考えてほしいです。

BVS隊の例では、整列は指導者とスカウトが毎回競争していますからすばやくできます。挨拶は、周囲に轟く声が1回目では出ていません。やり直しては感動しませんね。まだまだ頑張らないといけないと思います。隊長挨拶と団委員長挨拶の内容、今日の英語は、当日までにリーダー全員に連絡することにしてあります。ですから、思いつきで話をするのはなく、訓育を取り入れた内容で、簡潔に話をしていますので、効果的な挨拶になります。でも、スムーズに気持ちを込めて話すことでカッコいい姿を見せられるようになりますから、もっと事前の練習が必要です。「みんなで大きなわをつくろう」もスカウトが大きな声で歌っていないですね。自らが感動するぐらいの声を出せるようにする必要があります。ある表彰団が、「やるべきことを、やるべき時にやる」と言っていました。早くこの歌をしっかりスカウトに覚えさせてあげて、保護者と共に大きな声で歌えるようにすることが必要ですね。ご飯の歌を練習したように、セレモニーで歌う歌は重要です。早く改善しないとイケないです。「後からやる」、「各自でやってね」という指導方法は、いつまで経っても現状を変えることができないことをリーダー全員が共有してほしいです。

私たち指導者は、現状を正しく判断できる目と耳を働かせて（まなこひらきて 見きわめよ 耳そばだてて ききただせ）、カッコいい隊、団にするために、すぐに改善するためにどのように行動すべきかを考えて実践すべきです。4月のわくわくカーニバルに向けて、本当にかっこいい隊、団にしていきたいと思います。